

様之首途

天

特 別  
^5  
6590  
3(1)



極のそ途

新刊序詞

一 米舎

陶里

雨是老人ハスオムと正門ノ入  
以雅と理ありて理ハ心と心  
さハ先万物自然の姿ハ然ル  
然レハ花の平生と志ハ月  
吟一もハ吟一も修野地ハ  
之ノ余々といハハハハハハ





亦人たつハこの方れ終んて  
たけよあまのひ進免ちあまのひ  
あつし終るしあつしあつし終る  
道ひ中られしあつしあつしあ  
大の荒業れあつしあつしあ  
きいんあつしあつしあつしあ  
あつしあつしあつしあつしあ  
とつしあつしあつしあつしあ

南越の方よりあつしあつしあ  
陸を舟もあつしあつしあつしあ  
海の舟もあつしあつしあつしあ  
莫き海もあつしあつしあつしあ  
古の舟もあつしあつしあつしあ  
舟の舟もあつしあつしあつしあ  
舟の舟もあつしあつしあつしあ  
舟の舟もあつしあつしあつしあ  
舟の舟もあつしあつしあつしあ

従来もあつた今無り神の  
途り見ふも乃のそをよひし  
骨とていさる好積もあふれ  
ゆりも門た梅たはのし徳方の  
目も達やんと能たれ首途  
竹深ひくはるも山をえしる人く  
一日子女のちひあつた祝の神  
新くやそ健あるゆと今よりゆり

百韻

陶屋

求むるふいふもゆりた族  
船ひの愁た信きふぬま  
種あたをともみあと下はぬ  
ぬいささうとちた鳴く  
下後子れありは枝のちちた  
吟りくさるる文机まよ  
湯る月そのしちも解た  
為をくくた木のちちく

古橋  
なま  
出た  
梅古  
気  
子吟

方山とさくら木て葉吹合ふ 魯行

美言れハ梅ハ拙き余も 危燈

所何とらと翅杯乾く鞋進日 子交

西々水ハ吹くら 得

誰ハ居ぬ松の枝は枯れとら 如圭

流るん 酒はあふて梅は 茅橋

之あくす所も 河のま崖 東波

月もさすも 軒の影くら 飛書

くちくとはちからり 市は声 美聲

夜風の足は 感の松 佳標

ちよの向よえ若れ 強射よん 己足

魚ハ一と一 織ハ一と一 此は 己の

板壁て 菊りの 乾も白く人 求聲

琴 彈もれ 久は ちり 破夕

ニヲ  
こゝろ 心も 花も ちり 遠来

矢田れ ちり ちり 六槍



荷とはあふのこころのあはれ

くさねのあふのあはれ

伽羅のふくまのあはれ

秋のふくまのあはれ

日のあはれの中はあはれ

あはれの中はあはれ

揚るれあはれの中はあはれ

波くわくと海静なり

夷まを直あはれの中はあはれ

かめあはれの中はあはれ

あはれの中はあはれ

膳二二八のあはれ

橋のあはれの中はあはれ

あはれの中はあはれ

あはれの中はあはれ

あはれの中はあはれ



葉の裏の暮れは枇杷もさびし  
 ふ中もさびしうらら  
 揚てり 葉は下へちるを驚か  
 指合ふ一側さきよてはつ  
 中細のふくさうり一箇のけ  
 久松の節句日く経お  
 月のお一筆鳥出なり  
 徳園もりりふ四里  
 教の  
 葉の  
 岐山  
 和近  
 里乙  
 丸款  
 文子  
 西親左

由はは清けくむ書念をひきて  
 けうきう 登の結ん  
 山崎はさきよて一とつ雨  
 大松 通一と村中へ行く  
 露のさきうら 女支の娘へう  
 山崎の路さきうら 二方荒神  
 うらうら 山崎の内は遠くは  
 さきうら 山崎の木の末  
 梅屋  
 枚子  
 枚乙  
 旭志  
 嚙石  
 美文  
 流流  
 龍泉

研きくさくさの露の月世縁 月世縁

そなたのなまむくまむくま入 増紅

飄きよしははらひの命ごと 重塔

里と離し葉のまゝの家 土左

るさくしははらひの命ごと 呂朝

ひさしくははらひの命ごと 里探

の第の四さし初て初むまは 茶お

ふとどぬさくさくさくさく張納 左相

當くくははらひの命ごと 昌栄

ははらひの命ごと 李逸

ははらひの命ごと 文島

ははらひの命ごと 志来

ははらひの命ごと 茶江

ははらひの命ごと 逸功

ははらひの命ごと 七例

ははらひの命ごと 一風

似て花の目先がこころ青苑 瓶三

心花ハこころをぬく清 一版

月影一跡ハ子さる清の香 玉葉

子と捨る氣もやえて免やあふ 素蘭

之間の<sup>ムウ</sup>様ハ余余の正かろ 仁位

くふハ氣隔ハつた意飯 亦志

あそびのたひらきまか 紅雲 噴こ

こころこころの賢如のまゝ 多岐

傘れらるる行馬よけて 未推

雪のりーしりさふり 葉夕

我れをよき紙の凡は 梅二

ふしあふて花ふ門出 茶辭

名録

瓶列の句ハおぼれよめて  
四季れ吟とこころたふら

初鷹也款七二は月のお小方子珍

軒より下は暮ハ乾くも標  
 音の雨の音のこゝろに生は声  
 泉は背もあふくは川の  
 瓦も凡くくいと為葉は  
 鳥もやぬの湯の消かくれ  
 山の雲は月道ぬく雨ぬ  
 水梅のうらやまの翁月相  
 きもみふり凡くくも田ふ  
 陶里  
 葉聲  
 流清  
 得い  
 こい  
 亦ふ  
 曉こ  
 葵江

月れおや移うれてちる梅  
 ぬえや湯の早もまれ護摩  
 茶のふや京れ白ひのふれ湯  
 神さく燈ののやあさく湯  
 雄之や鞠の調子もかのたう  
 之幅のふうあつた梅の音  
 印のせとあつて背戸の音  
 稲葉の碎きもちるやあれ音  
 一流  
 お栄  
 免陸  
 呂箱  
 梅歌  
 文書  
 已見  
 素蘭

つらつら 野の能くあり 鏡月 上ノ條 以川

あまの舟はさきさき 舟入り 宗家 順正

海苔て 煮く ぬき 井北 後 西ノ 足望

ちりねは けふも 此の 小盃 如圭

まのれや 山の 梨も 嫩の 香 改田 仁伍

おしの はらばら さらして けしき 改田 柳渚

あつて けしき 葉よ よけ あり ちりね 改田 芳橋

あつて けしき 入心 けしき 揚の 香 改田 逸尔

きんぎょ けしき の けしき けしき けしき 錦水

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 芳橋

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 本田 宗助

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 幸逸

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 尾池 志保

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 川ノ 佳橋

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 後年 芳字

あまの 舟は けしき けしき けしき けしき 文昌

燈のくち袖てしらんの大なり  
 梅雨のちきま東白く片端所  
 雲梅のあしをなす雨の軒  
 駕くく枝にありて暮まよふ  
 乙月雨の傍小あつて這ふ雨煙  
 常よりあるやふくたぬあると見え  
 子よのまらへると次うぬき  
 しかあつておとあつてたのむ

東政  
 六識  
 紫の  
 雫の  
 なま  
 くら  
 多この  
 花よ

花よとく心なまらふら月  
 花よあつてまらふら花の枝  
 梅のあつてまらふら花の枝  
 菊のあつてまらふら花の枝  
 雪のあつてまらふら花の枝  
 春のあつてまらふら花の枝  
 夏の新梅して伸る柳の枝  
 秋のあつてまらふら花の枝  
 冬の新梅して伸る柳の枝

月よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ  
 花よ

ねまやあつみのさかひのさかひ  
 まゆねの凡たつたのこ 富永 磯夕  
 後りもくたなぬもさ 橋 磯石  
 村雨やねをさけり 輝 の声 左記  
 りんねのさかひのさかひ ホ 磯石  
 宿まの子のさかひのさかひ 磯 磯石  
 村らまのさかひのさかひ 磯 磯石  
 権左のさかひのさかひ 南 李お

陰木のうきとて遠く大井川 左記  
 クラマヤ行神もさのさかひ 磯 磯石  
 磯石のさかひのさかひ ス 磯石  
 田まのさかひのさかひ 五 磯石  
 流もたのさかひのさかひ 杜 磯石  
 ひまのさかひのさかひ 西 磯石  
 磯石のさかひのさかひ 季 磯石  
 クラマヤのさかひのさかひ ホ 磯石





ら〜む〜く〜して寝入り〜  
大河 大水 里餘

野ハ雛子のきね〜れて八重夜  
時公

妻両やれ〜きもるものか  
漆 鳩噴

流るの軒〜せ〜ゆ〜れ〜  
東野 只葉

言れ参か〜こ〜て黒〜  
一雉の海 里乙

吹うき〜てハ流〜れ〜  
初胡蝶 毛例

幸〜と〜は〜あ〜ら〜  
向ふ花 移道家 イト 花首

花や文〜物〜  
流花を 部〜と 吹夕

乙月おちあつても  
揚る 井の段 逸功

盆と家〜て〜  
流る 舟 一

亦の子〜ら〜  
ゆ〜れ〜  
一 瓶

月〜ら〜ぬ  
澄月 ち〜  
土田子 枕三

あ凡や〜  
ら〜  
麻令〜  
ち〜  
梅二

山〜と〜離れ  
ゆ〜  
ち〜  
不三 燈 から 枚子

凡〜と〜  
ゆ〜  
ら〜  
梅尾 ち るよ 奈夕

る〜  
下〜  
や〜  
り〜  
大 梅尾 ち ま 雨の形 ま 呼交

横井

初高也 爲と行ふ物日積

横井 王就

新見や月も水も山も

野永

野永

そと

東西大獨歩して澄人とさるるの地は汝を  
はかして月も水も山も凡雑のちこも  
我の官舎にすゝめさす君君とさるる  
此の地の地積とあひかへる月も水も山も  
龍雲の元とありけりかへてありき  
凡そ余きつる命今ハ世是れ故とありて頭と入  
九世のれは純子のねまも藤のゆもはなまらり  
事とありけりかへる水も山も

えり神のまゝるん老の波のわいさ  
立て起るあらしとくくく神と文の  
人くくくくくくくくくくくくく  
わくくくくくくくくくくくくく

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

大如減増 柳の世居れりさ 志亭

九天二ねれ續ありさ 志亭

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

あひさるや千里小 竹葉漢 柳

踏るべきる蓮の泣け島井とてい  
も哉

雨きぬゝ免て若堂とて  
と来也

まれ念の船あつじ以るれ也  
あはれ

いそしく補ふ飯食ふる  
たを

氏うあふ中浜と物のがた  
ふハ

いそいでつて寄れとて  
向さ

あつた橋皮片舟月也教  
朴心

いそお海つとていそす  
里産

徒一とあつてそと  
有原

あつた余つとあつと  
梅心

と十里とあつと  
なれ

とととあつと  
筆

太短ふり

慈父とていそか  
揚とあつたあつた  
極つたあつたあつた  
ちあつたあつたあつた

かほりさめしきつゆのまじりて人のあはれと  
のこしとあはれつゆのまじりて人のあはれと  
都井とえさつゆのまじりて人のあはれと

あはれつゆのまじりて人のあはれと 六井 文柳

名録 四季

草花の海はつゆのまじりて人のあはれと  
流石の乾ふか減やまのあはれ 七井  
と月雨や新雪ふか減やまのあはれ 八井

舟を渡るつゆのまじりて人のあはれと 九井 高申  
気候のあはれつゆのまじりて人のあはれと 十井 吉原  
水車もつゆのまじりて人のあはれと 十一井 八  
つゆのまじりて人のあはれと 十二井 八  
さのあはれつゆのまじりて人のあはれと 十三井 八  
らつゆのまじりて人のあはれと 十四井 八  
声のあはれつゆのまじりて人のあはれと 十五井 八  
あはれつゆのまじりて人のあはれと 十六井 八

松折よりる ぬん ち丸け 里産  
 ち丸や ち丸や ち丸や ち丸や 巴交  
 ち丸や ち丸や ち丸や ち丸や 有取  
 ち丸や ち丸や ち丸や ち丸や 了夕  
 ち丸の ち丸の ち丸の ち丸の 以子  
 ち丸の ち丸の ち丸の ち丸の 桂南  
 ち丸と ち丸と ち丸と ち丸と 柳志  
 ち丸や ち丸や ち丸や ち丸や 葉亭  
 葉亭

里人の声も稀なり合記の也 文柳

こまひのち丸のお書物

清りくもに目さるそ途る 鼎丸

日一く

聲の声もくものぬかち丸 梅丸

文音

丘高れ 樓ゆく 星月丸 雲坊  
 雲のちも 投細丸 目とく丸 雲由

初らんらりて西津の町雨に 杏種  
 吹のちるり舟新しと暮 曾流  
 ねハ又香たはとあけ梅のむ 弁也  
 ゑふや雨に狭ゆる車道 文司  
 け骨や魚のうらみのるみち 梅戸  
 高旅やあはれむとせせ 狸石  
 高栗に被りるる重印ふ 天王 免喫  
 木狭し遠くは餘のる葉とけ 可昌

長余のや中井にねふ女支鶴 巴江  
 日もしれぬなむとせせ 井公  
 髪かりふくこゆとせせ 女 けね  
 下枝より清ぬもあけ初雨 小野 里水  
 作れよもまの宮し小ねま 大乗 可葉  
 ち月やひくくあけく草の房 推倉 高弁  
 ち成しと海しとあけく 神傍 表忠  
 鳴るるちとあけく 石谷 板元

和歌のまゝらしむる南 城田寺 葉鳥

心流れず深き松葉鳥 栗野 松浦

まゆ柳や復もぬむとの枝さる 里 里桂

くくくかきと凡し柳の糸細し 惟 惟石

一破のまよふも味あふらの枝 一 一葉

あふ月の所る遠くはくらか イニラ 文荷

あふももえ白くはまうれ の のん

夕棠へあも色あへれ 之 之虎

あや机のうらたもまよる 一 一瓢

むらさきひきよき柳 柳 柳桂

あまねあるくはまうれ 桂 桂鳥

あまねわうらた 上ノ條 本山

風のあはれ ほ水 如柳

あまね海のあまね ま ま止

あまねと 李 李中

あまねの ふ ふう





ま〜〜のちとちとをまはすの  
い〜い〜く東南山にあり〜  
海の中けり柳のまきかたは〜  
ま〜く余波と〜なる〜の揚列の  
糸貫と放り〜て杖頭必録〜  
樹下石上の余茶法と〜あり〜  
あつて藤〜枝のそ途を〜はなれ

鶴にまゝの世を〜む〜杖を鞋

い〜い〜杖を〜む〜な  
七梁石

萬全

東家よそ〜む〜とまの入海く  
有るもま〜ぬは海雁の竿  
海や〜て翁の月〜る〜  
試〜ま〜る〜唐〜と〜て〜  
ち〜ん〜え〜波〜ら〜ある由并り  
賃地流れて多〜ら〜人  
浮家も世〜の〜を〜と〜配り  
為〜ら〜た〜油〜り〜さ〜ぬ  
雙文南

江戸市  
仲秀  
必方  
無羅  
越得  
化石  
如急  
雙文南

のきりてきりて初場 桐荷

ちりて彼名倉里八種筋 木童

乾むくおのうき繁むのひきき 坊

果報くし寐てゆとみぬ 盆

涙きて片煙を梅の又きうし 秀

三十日たとひ銀梅のち 布

下りてふ敵のお家頃おなて 羅

酒ときとたきうと長きけ 方

もぬらひ月さなへしとねのぼる

動くくくくくくくくくくく 得

<sup>ウ</sup> 葉れしと器用たなれを根着てきり 南

論語とやれしとくくくく 景

くくくくくくくくくくくくくく 童

張ひ流しとみ襟のちぬき 宗

大短ふり



船の舟車の日くくく 隠市

休るるはをたりの船中

目のあつ帆の吹かハ夜風 船中

浪也

水邊の浪をたそ

橋のまの白波の固てお祭 坊

まのハ雲むあつお波は橋 板也

くくくくくくくくくくく

花のた艶もりあや夏陽 花染坊

る霖もくくくくくくく 蟻堂

ハ勺春

草のりもあ鞍馬けおり 蟻堂

くくくくくくくくくくく 花染坊

る竹のこまのあおあああ 丑兩

ほせあうあてくくくく 子鶴

くくくくくくくくくくく 子風

つれて酔とさゆと柳千 鳥翔

ちのひちとあふれは月今宵 長壺

早稲田の海免ハ先達の塔 松戸

名録

ひまぢはくくさの昔れ塔 五西

ゆきまらうらうらふせらるるら 子鷗

新島のうすいさるちの石浮 子風

飯嶋のほろもあつとくく 鳥羽

ふねにまゐるえきとやの橋 尾花

魁とらるる東やのくせ 松戸

ほろの浦こそ

月ねのあつとらぬ道すのむね 坊

向をわはまらる 女の姿 丸

所へいあつとらぬの橋 古

あふれはくくさの昔れ塔

ちのひちとあふれは月今宵

あうなる根ハ草の端よかひりたる  
松ハ地と掃て毛一は六法路路  
後より草のハ草のハ草のハ草  
何よのく〜〜〜  
旅ハ〜〜〜  
き〜〜〜

下流のき宿やまにりんとあ 坊

丘之庫

〜白のじ〜〜〜維子れ声 九

楠子之墓

志居れえや芳〜〜〜中 坊

楊磨

高砂

おや〜人むちる松や雪 灘 右

卯月朝日ハ龍野の〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜

吹——て路に自りおは

龍野

ま木のわいとまろよて

志保坊

夕凡に抱くまわりの月

あやふ知れと路の月

志保

龍野の道に鳥作まゝまよとまろよて

二階座の龍野にまろよておは

まろよておは

志保坊

おとよはゆるまよとまろよて

名のこ新まよとまろよて

志保

短歌一折

志保

龍野の道に鳥作まゝまよとまろよて

あやふ知れと路の月

志保

奉りあやふ知れと路の月

志保

ま木のわいとまろよて

志保

夕凡に抱くまわりの月

志保

あやふ知れと路の月

志保



せ、  
雨夕

小、  
主偏

ふ、  
有後

い、  
都国

袖、  
暖東

糸、  
筆

名録

夕、  
陽東

順、  
二来

お、  
都国

海、  
雨夕

夕、  
為作

皆、  
文川

臨、  
文瀾

即、  
有後

川、  
魚起



